

編輯室むだばなし

A「これは何だネ？」

B「Royal Mail Line のポスタ」だよ」

A「何だつて此んなものを編輯室に架けておくのダイ？」

B「イヤ何も別に理由は無い。しかし一寸此の圖案が面白いじやないか！」



A「兩手に船を捧げた天狗翁か」

B「天狗翁とは氣がきかないナア。持ち物を見ろヨ！」

A「ハ、ア三つ叉の槍だナ、なるほど之れはネプチウンだ。」

B「ネプチウン——海王星の名の元だ」

A「時に、僕は此頃市街で面白い天文圖案を見たヨ！ガソリン屋の廣告ビラにペガソスといふのがあるネ」

B「其のガソリンを用ふと自動車为天馬の如く飛んで馳るといふのだナ！」

A「なるほど、なるほど」

目次	古代人と「南十字架」星座 (1)	明石の中央標準時標再建さる (8)
	キルソソ山天文臺の詩 (12)	カノソ女史より來書 (18)
	星座の境界線決定さる (20)	三月の天象 (21)
		編輯室むだばなし (24)

星 第3號

昭和五年二月二十四日印刷
昭和五年二月二十五日發行

天界 附録

編輯兼發行者	京都帝國大學内	天文同好會 (代表者 山本一清)
印刷所	京都市外山科町字東野一〇番地	京都 刑務所
印刷者	京都市外山科町字東野一〇番地	守 川 千 松